

現場訪問

●第1回全国生協安全運転大会(日本生活協同組合連合会)

より安全・安心な商品の配送をめざして、技術と知識を競う



「車両感覚運転」では9m四方のエリア内での方向転換を行う



交通教育センターレインボー浜名湖の模擬市街地コースを使った「法規走行」

昨年11月19日、交通教育センターレインボー浜名湖(静岡県浜松市)で「第1回全国生協安全運転大会」が開催された。同大会は、日本生活協同組合連合会(本部・東京都渋谷区)が主催。全国10地区の生協で商品の配送を担当する職員の代表者23名が選手として参加した。



「安全知識テスト」に取り組む選手たち



総合および各競技の上位3名は、矢野和博・日本生活協同組合連合会統括専務理事より表彰を受けた

開催の目的について、同連合会会員支援本部宅配事業支援部の松居哲生さんは次のように話します。「全国各地の主要な生協では、それぞれ安全運転大会を実施しています。ここで優秀な成績を収めた職員を集め、全国規模の大会を行うことで、生協全体として職員の安全意識をさらに高めていくことがねらいです。ただし、すべての生協が安全運転大会を開催しているわけではありません。この全国大会を、すべての生協で予選のような位置づけとなる競技会や研修

を実施してもらいたいの動機づけにしたいと考えています。選手は、「①安全知識テスト」「②エコ運転」「③法規走行」「④車両感覚運転」の4種類の競技に取り組み。①は交通法規、危険予測、安全知識に関する50問の問題に答えるテスト。②は外周コースを2周走行し、燃費を競う。③は指定されたコースを走行し、交通法規に則った運転が実践できているかを採点する。④は前進および後退でのパイロニア内での方向転換を行う。競技車両には急加速や急減速を測定するGセンサーが取り付けら

れており、速さだけでなく、荷に配慮した運転も求められる。これら競技規則の設定と競技の審判は、交通教育センターレインボー浜名湖が担当した。競技を終えて、大会の審判長を務めた交通教育センターレインボー浜名湖の仲田典生インストラクターは、「今回はレベルの高い接戦でした。ただし、緊張などから安全確認が不十分なケースもありました。業務の時は、平常心で適切な判断、行動がとれるように心がけてください」と講評を述べた。表彰は各種目別と、それらの得点を合計した総合で行われ、エフコープ篠崎支所(福岡県北九州市)の古池一旭さんが総合優勝に輝いた。

TOPICS

1 ●レインボーモーターズスクール 教習所の卒業生を対象としたバイクとクルマの体験ミニスクール



レインボーモーターズスクールで運転免許を取得した卒業生を中心に70名が集まった



HMSでは、インストラクターがスムーズなコーナリングのための運転姿勢に重点を置いて指導

昨年11月23日、レインボーモーターズスクール(埼玉県和光市)で同校の卒業生等を対象にした体験ミニHMS(ホンダモーターサイクリスト・スクール)・HDS(ホンダドライビング・スクール)が開催された。レインボーモーターズスクール教習所の小新井尚課長補佐は、「免許を取ったけれど、運転に不安を感じていたり、もっと上手になりたいと考えている卒業生は少なくありません。そうした方々にバイクやクルマの運転をより楽しんでいただくために、無料で参加できるHMSとHDSの体験版を2010年から開催しています」と話す。ライダー向けのHMSでは、パイロニアやコーススラロームが行われた。同校のインストラクターは一人ひとりの走行をチェックし、運転姿勢などをアドバイスしながら参加者にコーナリングの基本を伝えた。途中、埼玉県警察本部の白バイ隊員による模範走行も行われ、参加者はその様子を熱心に見つめていた。この他、会場内では、ホンダの最新バイク



埼玉県警察本部の白バイ隊員5名による模範走行

HDSでは、インストラクターのアドバイスのもと、参加者が車庫入れや縦列駐車練習を繰り返した

の試乗会なども行われた。一方、ドライバー向けのHDSでは、参加者が車庫入れや縦列駐車、後退走行でのパイロニアスラロームに取り組んだ。同校で自動車免許を取ったばかりで、HDSに参加したという女性には、「教習中から車庫入れ・縦列駐車は苦手だったので、インストラクターの方のアドバイスに沿って繰り返し練習して自信ができました」と満足そうだった。この日、HMS(3回実施)には62名、HDSには8名が参加し、一人ひとりが運転の楽しさと安全への理解を深めたようだった。

2 ●埼玉県警察本部 「交通事故削減のための協力に関する覚書調印式」 道路横断歩行中の事故原因究明に向けて



吉岡光男・埼玉県警察本部交通部長(中央)、永田春記(株)レインボーモーターズスクール代表取締役社長(左)、千葉英雄・本田技研工業(株)安全運転普及本部事務局長(右)

埼玉県では、平成23年中に県内の歩行中の交通事故死者数が前年に比べ増加した。これをうけ、埼玉県警察本部(以下、埼玉県警)では、歩行者死者の抑止対策に向けた事故原因を究明するため、専門知識を有する関係者と実験を行っている。そして昨年12月8日、埼玉県警と本田技研工業(株)、(株)レインボーモーターズスクールの間で、「交通事故削減のための協力に関する覚書」を交わした。調印式に出席した埼玉県警の吉岡光男交通部長は「歩行者死者の増加は、夜間の道路横断歩行者や路上寝込み者が顕著です。今回の実験では、こうした死亡事故の原因を自動車側と歩行者側の両面から究明することを目的としています。ホンダが、これまで蓄積してきた安全運転に関する知見を実験に活用してほしい」と、ホンダ等との協力の意義を話す。

主な実験内容は、「夜間の前照灯上向き(ハイビーム)走行の有効性」「前照灯照射時の死角範囲」「反射材の有効性と有効な取付位置(歩行者)」「明るい服装の有効性(歩行者)」など。「交通事故死者数を低減させる上で、歩行者への対策は最重要課題であると考えています。昨年末は、交通安全警察官以外の職員も街頭に出て啓発活動を行うなど、県警本部全体で取り組んでいます」と、吉岡交通部長は力強く語った。

3 ●2011年トヨタ・セーフティ・セミナー in 熊本 社内交通安全の指導法



グループディスカッションの様子

昨年12月14日、交通教育センターレインボー熊本(熊本県大津町)で、「2011トヨタ・セーフティ・セミナー in 熊本」(主催:交通教育センターレインボー熊本・福岡)が開催された。この日は、22の企業・団体から安全運転担当者など32名が参加。オフィスマットの村上員介代表を講師に迎え、「T・W・I手法から学ぶ社内交通安全の指導法」についての講演や、それを活用したグループディスカッションなどが行われた。

※T・W・I(Training Within Industry)手法は人間尊重を基本理念として、そのうえで作業・業務の効率化を追求し、知識(知)より技能(できる)を徹底的に指導するというリーダーのための手法。